

申人形(亀岡市文化資料館提供)



購読料 年8,000円
送料共 但し、会員
は会費に含まれる

発行所
京都府保険医協会
〒604-8162
京都市中京区烏丸通蛸薬師
上ル七観音町637
インタープレイス烏丸6階
電話 (075) 212-8877
FAX (075) 212-0707
編集発行人 久保 佐世

夏特集

特集1 亀岡歳時記 (2~4面)
特別企画 今、病院医療の現場では (5面)
特集II 731部隊と戦後の医の倫理 (6~7面)
会員投稿・理事随筆 (8~10面)

ご用命はアミスまで
◆医師賠償責任保険
◆休業補償制度 (所得補償、傷害疾病保険)
◆針刺し事故等補償プラン
◆自動車保険・火災保険
☎075-212-0303

佐伯灯籠祭の継承を

佐藤 隆(亀岡)

私の子どもの頃、毎年8月14日の午後東の方から大太鼓の音が聞こえてくる。やがて、沿道に埋められた村人の前を、法被姿の若衆に担がれた神輿が巡行。5基の灯籠が供奉し正装の神官や世話役が従っている。江戸時代、享保2年の『諸国年中行事』に、「丹波の奇祭「丹波さいきむら」の灯籠まつり」として紹介された、「佐伯灯籠祭」の初日である。旧佐伯郷(亀岡市穂田野町・吉川町)の氏神、穂田野神社他3社の社史、文献によると、この祭は寛喜元年に広幡大納言が穂田野神社に勅使として参向され、5基の灯籠を下賜されたのがはじまりとされている。

ものと灯籠は、仏前供養の具とされてきたが、室町時代の公家社会で盃盆に様々の趣向を凝らした華やかな風流灯籠を贈答品とする風習があり、宮廷にも献上され、下賜の灯籠にも大きな影響があったと思われる。この灯籠に地域の名を冠した佐伯灯籠祭が執行され、神輿の渡御

巡行にも供奉することから、五穀豊稔を祈る神事と盃盆の風流灯籠まつりの結合した特異な民俗文化が生まれてきたと伝えられる。これらの灯籠は、その年の豊作を祈って、御能、種蒔き、田植え、脱穀・臼摺り、石場搗といった1年の農事をあらわす人形を飾り、背景にその折々の景色を画く。1番から5番の神灯籠または宮灯籠、役灯籠と呼ぶ風流灯籠で、毎年新しく作り替えられる。現在の灯籠が下賜された

で、文楽人形以前の古い形を伝えている。従来、氏神の祭事は氏子を数地区に分けて輪番制で奉仕し、約1カ月の準備期間を経て8月14日の神幸祭、15日還幸祭の両日に執行されたが、1941(昭和16)年ころから8月14日に一本化された。神灯籠は輪番地区で祝い事があった家(灯籠宿)に8月7日から迎えられ、本祭まで灯明が灯され祀られる。祭当日昼前に神灯籠は台灯籠宿に



台灯籠(亀岡市文化資料館提供)

集合、出発式を行い穂田野神社へ運ばれる。神事のおと神輿に供奉し、途中、河阿神社、若宮神社と合流して御霊神社に到着。神迎えの大松明が焚かれ、再び神事を執行後、台灯籠を除き氏子地区を限らず巡行して穂田野神社へ還行。厳かに四社合同祭典が斎行され、台灯籠では人形浄瑠璃が上演される。祭典の後、神灯籠と神輿が参道を行き交う「灯籠追い」や、神輿と大太鼓がぶつかり合う勇壮な「大鼓掛け」、最後の「灯籠吊り」で最高潮に達した祭典も終わり、神灯籠はそれぞれ宿に帰る。その後、日を改めて行われる「灯籠破り」で、解体された神灯籠の部材は関係者らに配られ、厄除けとして玄關に飾られる。

佐伯灯籠祭も時代とともに神輿巡行の様式が変わり、夜を徹した盆踊りも懐かしい思い出となったが、先人の祈りが込められた祭を後世に伝えるべく、近年「佐伯灯籠保存会」が結成された。なお、1985(昭和60)年4月19日に京都府の「無形民俗文化財」に、2009(平成21)年3月11日には国の「重要無形民俗文化財」に指定された。



稲作の様子を人形で飾り付けた神灯籠。①は無形民俗文化財地域伝承活動事業報告書「佐伯灯籠」(亀岡市教育委員会発行)より転載。②~⑤番は佐藤氏撮影。

残暑お見舞い 申し上げます

2015年夏 京都府保険医協会 理事者・事務局一同



地域紹介シリーズ12

亀岡歳時記



明智家家紋でも使用されている桔梗の花(谷性寺)

地域紹介シリーズ第12弾となる「亀岡」座談会を、亀岡市の田中源太郎翁旧邸である楽々荘で開催。出席者は亀岡市医師会会長の加藤啓一郎氏、副会長の森戸俊典氏、大槻稔司氏、佐藤隆氏、上原久和氏で、オプザーバーとして垣田さち子理事長が参加。亀岡市の歴史や文化、また地域医療の移り変わりや現状を語っていただいた。

第1部

受け継がれてきた伝統の祭

交通の要衝「亀岡」とは

霧の亀岡

加藤 私は京都市内、丹波口の近くの生まれで、23年前に亀岡に移り住み開業しました。京都の人間からみると、亀岡は遠いところというイメージがありますが、「秘境だ」とまでおっしゃる方もいます(笑)。昔なら、京都市内から亀岡に行くのは一日仕事でしたね。それが今は京都駅から20分で行けます。先生方の



加藤 啓一郎氏 (司会)

亀岡はとも霧の多いところ。兵庫県朝来市の竹田城は「日本のマチユビチュ」と言われていますが、亀岡はそこよりもずっと霧が多いと思います。連れ合いは「霧で洗濯物が乾かへん」と、文句を言っていました(笑)。

亀岡には、ゆかりの先人 上原 亀岡は都のすぐ近くで、尊氏にしても光秀に

くで、尊氏にしても光秀に、あるいは義経も一谷の合戦に向かうときにいる江戸時代思想家の石田梅岩、絵師の円山応挙、大本教の出口王仁三郎、立命館大学の創立者で西園寺公望の秘書を務めていた中川小十郎の各顕彰会です。光秀以外は、いずれも亀岡生まれです。

医療面で言うと、史実でははつきりしないんですが、平安時代の医家である丹波康賴が亀岡の生まれであるという説があります。日本最古の医学書といわれる『医心方』を書いた人である市南の医王谷で薬草を育てていたとされています。日本で初の人体解剖を行った山脇東洋も、亀岡生まれと言われています。

上原 私の小学校の時の遠足の行き先が、東別院の石田梅岩生誕の地というところもありました。石田梅岩がどういふ人なのかよく知らなかったのですが(笑)。

垣田 さすが亀岡ですね。小学校で石田梅岩のことを教えているなんて。そのうちNHKで取り上げられるのではないですか。加藤 梅岩の方ですか。亀岡は、光秀を取り上げてもらおうとロビー活動をしているんですが(笑)。

戦乱の時代には、神社はかなり荒廃していたようですが、亀岡には、ゆかりの先人 上原 亀岡は都のすぐ近くで、尊氏にしても光秀に

亀岡祭と佐伯灯籠祭

加藤 亀岡には伝統的なお祭がいろいろあります。

お祭がいろいろあります。上原先生は亀岡祭に、佐藤先生は佐伯灯籠祭にそれぞれかかわっておられるんですね。

上原 亀岡市はちょうど60年前の1955年、一つの町と15の村が大合併して市となりました。その一つの町である旧亀岡町地域で毎年10月に行われているのが、京都府登録の無形民俗文化財である亀岡祭(鍛山神社秋季大祭)です。さきほど大槻先生が述べられたように、かつて出雲の神々が保津峠を開削して亀岡盆地を拓いたとされているのですが、鍛山神社は709(和銅2)年に大國主命を祀り建立されました。

私は八幡山鉾を出している鉾町の出身ですが、町内の子どもは小学3、4年くらいになると、鉾の稽古を始め、6年生になると太鼓を叩くようになります。私も子どもの頃から鉾に乗って、お囃子の一員として祭に参加していました。医院継承のため鉾町に戻ってき

ました。娘もお囃子として鉾に上がるようになり、



大槻 稔司氏

が通っている旧山陰線の線路は、地元出身の衆議院議員の田中源太郎さんが発起人となって鉄道会社をつくり、1900(明治33)年に京都から園部間が開通しています。志賀直哉の『城の崎にて』の中にも、山陰線を通じて城崎に行つたという記述があります。

佐藤 亀岡は「トンネルを抜ける」ところは霧だつた(笑)というイメージで、いかにも不便なところと思われていますが、亀岡は山陰地方へ行く中間地であり、保津川、桂川を通じていろいろな物資を京都に運んだ運送の中心地として、歴史的にも大事な役割を果たしていた地域だったと思います。

垣田 いつも曇りがちなので住民には喘息の人が多くいて聞きましたが、実際はどうなんですか。

大槻 結核も多かったですが、今は行政も観光資



亀岡祭

亀岡祭(10月23~25日)

八幡山鉾の辻回し。鉾の中央部から柱を出し全体を浮かせ方向転換する方式は、亀岡祭独特

の種田神社は、時の朝廷や庶民から非常に崇敬されており、社史などでは1229(寛喜元)年、広幡大納言が勅使で来られたときに、5基の灯籠を下賜されたとあります。もともと仏前にお供えするものだった灯籠も、当時の公家社会では孟蘭盆の贈答用に作られた特殊な風流灯籠があり、その影響で灯籠の下賜も孟蘭盆の旧7月になったのではというのは、少し思いすぎでしょうか。



佐伯灯籠と名付けられた5基の灯籠は、その年の豊作を予祝した1年間の農事をあらわした風流灯籠で、毎年、神社の祭礼8月14日「籠追い」という行事や、神輿と大太鼓をぶつけ合い横倒しになりながらも、太鼓を打ち続けるので有名な「太鼓掛け」なども行われます。種田神社での祭礼の後、種田神社に還り氏神四社合同祭典が行われます。祭典が終わって「灯籠」は神輿に従って巡行した後に、種田神社に還り氏神四社合同祭典が行われ少なかった頃はみんなの大きな楽しみで、夜が更けてお祭なんです。

も踊っていたのですが、最近益々無くなってしまっていますね。

垣田 すごく大がかりなお祭なんです。

佐藤 昔は巡行のときは神輿を担ぎ、太鼓をひっぱり、灯籠も持ちました。神主さんは馬に乗っていました。このごろのように少子高齢社会になると奉仕者が減り、神輿や太鼓、灯籠はトラックに、神主さんは乗車に、役員さんはマイクに乗っての巡行で、なんとなく情緒がなくなってきたように思うのも、時の流れでしょうか。



佐伯灯籠祭(8月14日) 五穀の苗を依り代とした神輿や神灯籠、切子灯籠などが巡り歩く。五穀豊穡を祈る神事であり、祖霊の冥福を祈る孟蘭盆の行事でもある

地域医療を支える原点

亀岡市医師会にあり

第 2 部

加藤 話題を変えて、亀岡の医療についてお話しいただきたいと思います。亀岡市医師会には長い歴史があります。エピソードも多々ありますが、中でも1956(昭和31)年9月の亀岡小学校での集団赤痢の発生では、医師会が大活躍したということがありますが、

赤痢集団発生で 医師会奮闘

大槻 この当時、私はインターンをしていました。市内で発生した赤痢患者の数は386人とも369人とも言われています。その1年前に亀岡市が誕生したばかりで、市は財政的に厳しい時代でした。そういうこともあり、亀岡小学校に

臨時の隔離病舎をつくり患者を収容することになりました。小学校には245人収容しました。また旧亀岡町の西山にも隔離病舎があり、そこに57人、吉川の病舎には24人、公立南丹病院に38人、その他の病院に5人それぞれ収容しました。合計369人です。

当時、医師会長の古畑文男先生と市長をしていただいた父の大槻嘉男とが話し合っ、医師会として当番制で小学校に詰めるようにしました。個々の医師が自分の患者さんを診るのではなく、医師会として治療に当たるといった奉仕的な活動だったのです。

様変わりした 患者との関係

佐藤 私は1964(昭和39)年に開業しました。その前は公立南丹病院で勤務医をしていました。当時、亀岡市内には、旧亀岡町で数人の医師が、その他の旧村では各1~2人の医師が自宅で開業しておられました。当時の医師は、村

も踊っていたのですが、最近益々無くなってしまっていますね。

垣田 すごく大がかりなお祭なんです。

佐藤 昔は巡行のときは神輿を担ぎ、太鼓をひっぱり、灯籠も持ちました。神主さんは馬に乗っていました。このごろのように少子高齢社会になると奉仕者が減り、神輿や太鼓、灯籠はトラックに、神主さんは乗車に、役員さんはマイクに乗っての巡行で、なんとなく情緒がなくなってきたように思うのも、時の流れでしょうか。

患者さんも、家族全員ですつと診てもらっているわけですから、医師に対する信頼も厚いので、今のように、医療過誤、医療事故など問題となるものがほとんどなかったという時代です。こういう医師と患者との関係が地域医療の原点だと思っています。

ところが、だんだん時代が変わってきました。統計によりますと、1949

救急医療の現場

森戸 南丹医療圏は亀岡市と南丹市、船井郡京丹波町で構成され、14万人が住んでいます。その中で1、2、3次の救急医療が充足しているかとみると、科によつてかなりの格差がある

年、自宅に亡くなるのは80%くらいでした。ほとんどが自宅で家族、親戚に見守られながら臨終を迎えていたということです。それが2010年では、自宅に亡くなるのは12%だそうです。約60年で、いわゆる病院完結型に変わってきています。

また、私が開業した頃から日本は経済復興を遂げて、国民の健康に対する関心も高まってきました。亀岡市でも1984(昭和59)年5月に保健行政の拠点として、保健センターが京都府亀岡保健所の跡地に竣工して、他の施設にあつた休日急病診療所も同センター内に移転したのを契機に、行政と連携した医師会の地域医療への関与が飛躍的に増大しました。



阪神淡路大震災で、災害医療に対する意識がぐっと高まったということが大きな契機ですが、それまでの行政との協力体制の積み上げの結果だと思えます。

医療資源を有効に活用できるような啓発活動を行っています。南丹地域では唯一、公立南丹病院が小児科当直体制を敷いており、ほぼ3次救急まで全例を受け入れてもらっています。しかし一方で、夜間休日には受診者が集中し

深くなってきました。患者さんも、医学的な知識をどんどん持つようになってきています。それで専門医志向、病院志向が生まれてきた。昔みたいに「この先生に診てもらったんやから、どないなんてもいえない」となっていますし、様々な専門医の関係がなくなってきたのです。患者さんとの関係は次第に難しくなっているように思います。

さらに医学も専門化が進み、その専門領域は狭く、

急病診療所への出務を通じて、休日昼間の診療の一翼を担っています。また、数年前には小児救急医療をテーマにした市民公開講座を開催するなど、市民が医療体制について理解を深め、医療資源を有効に活用できるような啓発活動を行っています。南丹地域では唯一、公立南丹病院が小児科当直体制を敷いており、ほぼ3次救急まで全例を受け入れてもらっています。しかし一方で、夜間休日には受診者が集中し

断られたかという統計です。外傷患者の事案をみると、南丹医療圏が京都府内でワースト1です。夜間や土曜、日曜では、救急車は京都市内に向かう場合が非常に多いです。

私も診察していると、患者さんから昨日は救急車で京都九条病院に行つたとか、済生会京都府病院に行つたとかという話は日常茶飯事です。外傷については3次救急は当然できません。2次ですら十分充足できていない。医療圏として非常に問題だと思えます。ただし、救急医療は現状としては難しい問題があり

非常な問題だと思えます。ただし、救急医療は現状としては難しい問題があり

断られたかという統計です。外傷患者の事案をみると、南丹医療圏が京都府内でワースト1です。夜間や土曜、日曜では、救急車は京都市内に向かう場合が非常に多いです。

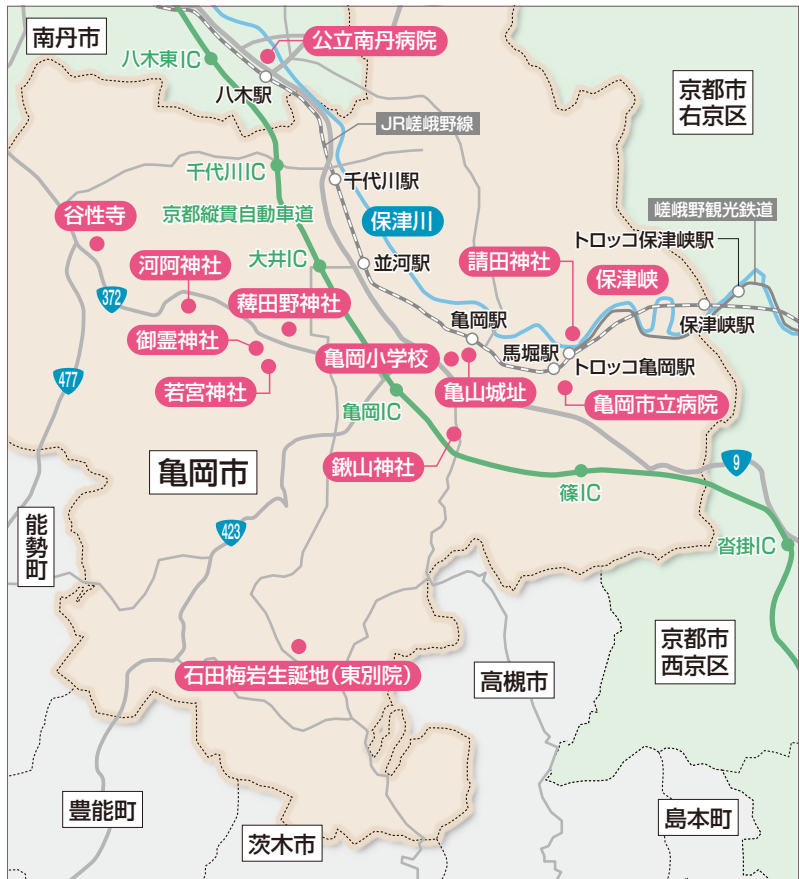
私も診察していると、患者さんから昨日は救急車で京都九条病院に行つたとか、済生会京都府病院に行つたとかという話は日常茶飯事です。外傷については3次救急は当然できません。2次ですら十分充足できていない。医療圏として非常に問題だと思えます。ただし、救急医療は現状としては難しい問題があり

断られたかという統計です。外傷患者の事案をみると、南丹医療圏が京都府内でワースト1です。夜間や土曜、日曜では、救急車は京都市内に向かう場合が非常に多いです。

私も診察していると、患者さんから昨日は救急車で京都九条病院に行つたとか、済生会京都府病院に行つたとかという話は日常茶飯事です。外傷については3次救急は当然できません。2次ですら十分充足できていない。医療圏として非常に問題だと思えます。ただし、救急医療は現状としては難しい問題があり

断られたかという統計です。外傷患者の事案をみると、南丹医療圏が京都府内でワースト1です。夜間や土曜、日曜では、救急車は京都市内に向かう場合が非常に多いです。

私も診察していると、患者さんから昨日は救急車で京都九条病院に行つたとか、済生会京都府病院に行つたとかという話は日常茶飯事です。外傷については3次救急は当然できません。2次ですら十分充足できていない。医療圏として非常に問題だと思えます。ただし、救急医療は現状としては難しい問題があり



垣田 さち子 理事長 (オプザーバー)

診に行くのも大変です。片道30分くらいかけて1軒の

佐藤 東日本大震災で被災したある医師が言っておられた。地域によって

森戸 最後に宣伝だけさせて下さい(笑)。今年から京都府亀岡ハーフマラソンが始まります。12月6日開

加藤 本日はお忙しいと協力しています。

報告センターでは医療だけでなく、介護や福祉に関する情報も扱っています。これが現在の亀岡市医療・介護・福祉連携推進会議へと発展していったわけです。

佐藤 昔の地域医療というのは皆が往診に行き、どういった機能を持つ情報センターの設置が実現して、現在も活動をしています。情

加藤 先ほど大槻先生がおっしゃったように、医師だけでなく、訪問看護、訪問看護、福祉に携わる方々に協力してもらいながら在宅医療を進めていく、連携を深めていかなければならぬと思います。

佐藤 状況は違いますが、開業医は専門だけにこだわらず、総合医マインドを持つてほしい。それができれば過疎地の医療も解決できるのではないかと。人工物が建っている道を走ることになりませんが、この大会では空気のよい山間部を走ります。興味のある方はぜひご参加下さい。医師会も救護班で協力しています。

加藤 本日はお忙しいと協力しています。

加藤 本日はお忙しいと協力しています。

亀岡市立病院と地域医療連携

加藤 1989年頃から、医師会として地域医療連携の問題に取り組みという機運が高まり、2004年に亀岡市立病院ができる機会に合わせて議論を重ね、12年ごろから具体的な活動を始めています。市

100床の病院をつくることになって以降、地域医療、地域医療連携ということが盛んに言われるようになっていた時期でもありません。少くも市民要望に応えるにはどうすればいいか医師会で検討し、病院の中に医療情報センターをつくることになりました。これはたとえ、住民が亀岡から救急搬送されて、京都市内の病院に入院。退院後、その人に亀岡市内でかかりつけ医がない場合、センターに相談すれば、適切な医師を見つけてくれる。紆余曲折がありました。そういう機能を持つ情報センターの設置が実現して、現在も活動をしています。情

大槻 かつてつづけで大規模な住宅開発が行われましたが、その子どもさんたちが高校を卒業して市外に出てしまうと、もう戻ってこないということもあると思います。年寄りだ

診ていたとき、訪問看護師さんの協力で大変助かりましたが、これからの地域医療はいつたどうなるんでしょうか。

加藤 先ほど大槻先生がおっしゃったように、医師だけでなく、訪問看護、訪問看護、福祉に携わる方々に協力してもらいながら在宅医療を進めていく、連携を深めていかなければならぬと思います。

佐藤 状況は違いますが、開業医は専門だけにこだわらず、総合医マインドを持つてほしい。それができれば過疎地の医療も解決できるのではないかと。人工物が建っている道を走ることになりませんが、この大会では空気のよい山間部を走ります。興味のある方はぜひご参加下さい。医師会も救護班で協力しています。

加藤 本日はお忙しいと協力しています。

亀岡市立病院と地域医療連携

加藤 1989年頃から、医師会として地域医療連携の問題に取り組みという機運が高まり、2004年に亀岡市立病院ができる機会に合わせて議論を重ね、12年ごろから具体的な活動を始めています。市

100床の病院をつくることになって以降、地域医療、地域医療連携ということが盛んに言われるようになっていた時期でもありません。少くも市民要望に応えるにはどうすればいいか医師会で検討し、病院の中に医療情報センターをつくることになりました。これはたとえ、住民が亀岡から救急搬送されて、京都市内の病院に入院。退院後、その人に亀岡市内でかかりつけ医がない場合、センターに相談すれば、適切な医師を見つけてくれる。紆余曲折がありました。そういう機能を持つ情報センターの設置が実現して、現在も活動をしています。情

大槻 かつてつづけで大規模な住宅開発が行われましたが、その子どもさんたちが高校を卒業して市外に出てしまうと、もう戻ってこないということもあると思います。年寄りだ

診ていたとき、訪問看護師さんの協力で大変助かりましたが、これからの地域医療はいつたどうなるんでしょうか。

加藤 先ほど大槻先生がおっしゃったように、医師だけでなく、訪問看護、訪問看護、福祉に携わる方々に協力してもらいながら在宅医療を進めていく、連携を深めていかなければならぬと思います。

佐藤 状況は違いますが、開業医は専門だけにこだわらず、総合医マインドを持つてほしい。それができれば過疎地の医療も解決できるのではないかと。人工物が建っている道を走ることになりませんが、この大会では空気のよい山間部を走ります。興味のある方はぜひご参加下さい。医師会も救護班で協力しています。

加藤 本日はお忙しいと協力しています。



森戸 俊典氏

加藤 1989年頃から、医師会として地域医療連携の問題に取り組みという機運が高まり、2004年に亀岡市立病院ができる機会に合わせて議論を重ね、12年ごろから具体的な活動を始めています。市

100床の病院をつくることになって以降、地域医療、地域医療連携ということが盛んに言われるようになっていた時期でもありません。少くも市民要望に応えるにはどうすればいいか医師会で検討し、病院の中に医療情報センターをつくることになりました。これはたとえ、住民が亀岡から救急搬送されて、京都市内の病院に入院。退院後、その人に亀岡市内でかかりつけ医がない場合、センターに相談すれば、適切な医師を見つけてくれる。紆余曲折がありました。そういう機能を持つ情報センターの設置が実現して、現在も活動をしています。情

大槻 かつてつづけで大規模な住宅開発が行われましたが、その子どもさんたちが高校を卒業して市外に出てしまうと、もう戻ってこないということもあると思います。年寄りだ

診ていたとき、訪問看護師さんの協力で大変助かりましたが、これからの地域医療はいつたどうなるんでしょうか。

加藤 先ほど大槻先生がおっしゃったように、医師だけでなく、訪問看護、訪問看護、福祉に携わる方々に協力してもらいながら在宅医療を進めていく、連携を深めていかなければならぬと思います。

医療安全シンポジウム

日時 9月12日(土) 午後4時～6時30分 ※終了後懇親会あり

場所 新・都ホテル「陽明殿」(JR京都駅八条口前)

テーマ 「医事紛争を知る～何処でも起こり得る事例検討」
— 医療安全対策55周年記念開催

パネリスト
内科：砺波 博一理事 外科：林 一資副理事長
整形外科：宇田 憲司理事 産婦人科：貫戸 幸彦委員
(協会医療事故案件調査委員会)

参加費 1人 2,000円(懇親会費含む) ※当日徴収

申込み 9月4日までに医療機関名、電話、参加者数を FAX (075-212-0707)にてお申し込み下さい。

なお、このシンポジウムは、医療法上年2回義務付けられている医療安全管理のための職員の研修となります。参加者には参加証を交付しますので、奮ってご参加下さい。

共催 京都府保険医協会 有限会社アミス
後援 京都府歯科保険医協会

奥様向けセミナー “ミーミーサロン”

診療所向け

院長夫人のための わかりやすいマイナンバー制度

2016年1月より利用開始となるマイナンバー。マイナンバー制度って何?? どうやって対応すればいいの??

概要説明だけでなく、実務上の注意点を実演も交えて楽しく解説します。同じ悩みを持つ仲間と一緒に学び、情報交換できる素敵な出会いの場です。

とっておきの、おいしいスイーツをご用意して、皆さまのご参加をお待ちしております!

日時 9月16日(水) 午後2時～4時30分

場所 京都府保険医協会・ルームA～C

定員 36人 (本紙2935号に同封のチラシ申し込み欄をご記入の上、FAX下さい)

共催 有限会社アミス ひろせ税理士法人

参加費 会員・会員家族 2,000円

特別企画

竹中 温医師に聞く

亀岡の

今、病院医療の現場では

地域紹介シリーズに関連して、亀岡シミス病院院長の竹中温医師に病院医療の現状、抱える課題など、病院からみる地域医療について話を聞きました。



竹中 温氏
1973年、京都府立医科大学を卒業。京都第二赤十字病院外科、京都府立医科大学第一外科、済生会京都府病院外科、国立福知山病院外科を経たのち、1981年以降、京都第二赤十字病院外科部長、京都第二赤十字病院副院長を歴任。2013年に医療法人清仁会亀岡シミス病院副院長に就任し、2014年から院長を務めている。

限られた医療資源の中で 試行錯誤の日々

—今回、地域紹介シリーズで亀岡市医師会さんの協力が、座談会を開催しました。その中で、南丹医療圏では小児科の救急医療は公的病院だけでほぼ100%カバーできていると聞きましました。一方で、外科が非常に手薄ということでしたが。

竹中 南丹医療圏の救急指定病院である3病院において、麻酔医の常勤がいないのは亀岡市立病院と公立南丹病院だけです。2病院の詳細はわかりませんが、私どもの病院(亀岡シミス)は麻酔医が常時不在(週2日のみ勤務)のため、脳外科・一般外科の常勤医師不足の影響も大きいですが、緊急手術に対応できないことが多いです。その影

響で、救急隊の要請をやるべく断らざるを得ない状況が多々あります。また圏内には外科医はある程度数おられると思いますが、脳外科の医師は極めて少なく、南丹医療圏内では当院で対応できるように考えています。救急受入不能症例のうち、グループ病院への搬送は約50〜60%で、残る40%は公立南丹病院か亀岡市立病院に搬送されていると聞いています。

他病院もそうだと思いますが、本来は地域住民に信頼される病院となるために、要請されたすべての患者さんを受け入れたいし、また医院からの紹介患者も受け入れ、開業医の先生方に患者さんを逆紹介できるような地域病診連携が必要

—医療圏での対応が難しい部分を、医療圏を超えてカバーしているのが現状ということですね。

竹中 本来は医療圏内の病院間で連携し、患者対応することが理想でしょう。しかし現状では、近隣の患者さんなので当院への再受診ということも考えて、できるだけグループ内病院間で対応できるように考えています。救急受入不能症例のうち、グループ病院へ

「医療過疎」という現実

—産婦人科についても南丹医療圏では厳しいとお聞きしましたが、亀岡という地域での医療については、先生が感じられることは。

竹中 亀岡地域といつても、赴任して日も浅いので私どもの病院のことしかわかりません。当院には亀岡シミス病院の前身である

「あたご病院」時代から勤務している先生が数人おられます。時代も良かったのか、患者・医師の信頼関係もあり、救急疾患に対してもかなり精力的にやっておられたと聞いています。また、小さい病院の特徴かもしれないですが、従来から地域密着型の「かかりつけ」的な病院としてもやっ

丹医療圏では厳しいとお聞きしましたが。

竹中 産婦人科のことはよくわかりませんが、公立南丹病院に産婦人科があり、中核を担っておられると思います。亀岡市立病院には産婦人科はなく、当院にももちろんありません。亀岡市内ではお産ができる産婦人科医療・クリニックが2軒あり、頑張っておられると聞いています。

—医療圏では医療資源が限られているということですが、病院間で連携が図られているものがありますでしょうか。

竹中 当院、亀岡市立病院、公立南丹病院の当直医の情報を亀岡市医師会に提供し、回診医師がとりま

—今回、専門医制度が新たな見直しされ、すでに2015年度から新基準で専門医更新を行う学会もあり、日本外科学会のホームページでは、日本専門医機構からのモデルプログラム承認待ちだと報告があがっていました。また新制度においても認定・更新要件の大幅な変更はないと考

大病院志向の新専門医制度

—今回、専門医制度が新たな見直しされ、すでに2015年度から新基準で専門医更新を行う学会もあり、日本外科学会のホームページでは、日本専門医機構からのモデルプログラム承認待ちだと報告があがっていました。また新制度においても認定・更新要件の大幅な変更はないと考

告されていますが。

竹中 新専門医制度に関しては私も理解していない部分が多く、はっきりとはわかりませんが、新しい専門医は学会とは独立した中

現時点では、患者さんへの危惧しています。どこも頭を悩ませていることですが、地域病院の切実な問題として勤務医の確保が大変難しい。この新専門医制度が良い例ですが、勤務医としてのキャリアアップが望みにくくなること、一定の中堅医師が開業を選択しかねないことも事実です。さらに若手医師は地域に来てくれず、残るは老年の医師のみ。これではますます地域の病院は疲弊してしまいます。一定期間の地域病院勤務も専門医取得の必要条件に加えていただけないものでしょうか？

—医療圏では医療資源が限られているということですが、病院間で連携が図られているものがありますでしょうか。

竹中 当院、亀岡市立病院、公立南丹病院の当直医の情報を亀岡市医師会に提供し、回診医師がとりま

—医療圏では医療資源が限られているということですが、病院間で連携が図られているものがありますでしょうか。

—医療圏では医療資源が限られているということですが、病院間で連携が図られているものがありますでしょうか。

—医療圏では医療資源が限られているということですが、病院間で連携が図られているものがありますでしょうか。

—医療圏では医療資源が限られているということですが、病院間で連携が図られているものがありますでしょうか。

—医療圏では医療資源が限られているということですが、病院間で連携が図られているものがありますでしょうか。

—医療圏では医療資源が限られているということですが、病院間で連携が図られているものがありますでしょうか。

—医療圏では医療資源が限られているということですが、病院間で連携が図られているものがありますでしょうか。

—医療圏では医療資源が限られているということですが、病院間で連携が図られているものがありますでしょうか。

—医療圏では医療資源が限られているということですが、病院間で連携が図られているものがありますでしょうか。

—医療圏では医療資源が限られているということですが、病院間で連携が図られているものがありますでしょうか。

—医療圏では医療資源が限られているということですが、病院間で連携が図られているものがありますでしょうか。

—医療圏では医療資源が限られているということですが、病院間で連携が図られているものがありますでしょうか。

—医療圏では医療資源が限られているということですが、病院間で連携が図られているものがありますでしょうか。

—医療圏では医療資源が限られているということですが、病院間で連携が図られているものがありますでしょうか。

—医療圏では医療資源が限られているということですが、病院間で連携が図られているものがありますでしょうか。



国道9号線沿いで救急医療を担当する亀岡シミス病院



特集II

講演録

731部隊の戦後と医の倫理

医の倫理―過去・現在・未来―企画実行委員会は4月12日、「日本医学会総会2015関西」に対するアピール企画として「歴史を踏まえた日本の医の倫理の課題」を開催。協会の垣田さち子理事長が代表を、吉中丈志理事、飯田哲夫理事が副代表を務めた。アピール企画の午前の部で行った特別講演の概要を紹介する。講師は、ジャーナリストで作家の青木富喜子氏。

パウエル氏との出会い

私が『731 石井四郎と細菌戦部隊の闇を暴く』(新潮社刊)という本を出してから、10年になります。私が取材を始めたのは2000年です。その年にサンフランシスコでジョン・パウエルさんというアメリカ人に会いに行きました。彼は、上海で「チャイナ・ウィークリー」という英語の週刊誌を主管していたジャーナリストです。パウエルさんは大変な努力家

で、情報公開法を駆使し、20年かけて731部隊と米軍が取りつた文書を発掘しました。2000年に私がサンフランシスコに伺ったとき、パウエルさんとい

るうち、石井四郎の身の回りの世話をしていた女性に会うことができたのはラッキーでした。私が東京・大森のお宅に伺うと、長男が

「もう一人、731部隊について私がいろいろと教えていたのが、石井四郎の足跡をたどってみたい」と思っていて、千葉県の加茂を訪ねてみました。ソ連が満州へなだれ込んだ70年前の夏、命からがらに帰っていた村人たちは「731部隊の秘密は、結核、日本政府として

は、1997年に180人の中国人犠牲者が、日本政府を相手取って損害賠償を求めた訴訟を起したものです。その判決が出るまで5年もかかっているのです

が、結局、日本政府としては損害賠償はしないという判決になりました。ただし、日本に細菌戦部隊があり、実験をして、中国や朝鮮の方、あるいはロシアの方に非常に迷惑をかけたという

ことはその裁判で事実認定されています。石井家からのびる鳥を辿

当時の少年隊の隊員は30人くらい。731部隊がある平房の町は、当時、ひとりひとり平房だったそうです。その一本道をひたすら走っていくと、鉄条網の塀が見えてきた。やがて、忽然と真新しい建物が現れたといえます。標識には「何人といえども関東軍司令官の許可なくして柵内への立ち入りは厳禁に処す」と、それをみた15歳の少年は「一体どんな部隊か」と思ったといふことだ。

731少年隊員の軌跡

当時の少年隊の隊員は30人くらい。731部隊がある平房の町は、当時、ひとりひとり平房だったそうです。その一本道をひたすら走っていくと、鉄条網の塀が見えてきた。やがて、忽然と真新しい建物が現れたといえます。標識には「何人といえども関東軍司令官の許可なくして柵内への立ち入りは厳禁に処す」と、それをみた15歳の少年は「一体どんな部隊か」と思ったといふことだ。

新しい建物のなかの7号棟と8号棟の細菌工場は、菌の散布が行われました。しかし、上手いかなかったです。そこでペスト菌に感染したノミを寧波や金華に投下していきま

し、記録フィルムを作製。軍隊内で大々的に宣伝する一方、ペスト菌をそれ以降の大規模な細菌戦の兵器として選んだわけです。それでペストノミの生産能力の拡大に力を入れるようになった。

その後、常德でペストノミを1000メートル上空から投下。1942年には浙

かかん作戦などをやっていたわけですが、この頃、一

入れるのはほんの少数のエンジニアだけで、全国の医学生のなかでたった100人足らずだったそうです。その後、近衛歩兵第3連隊などを経て、陸軍から京都帝国大学大学院へ送られる研究」でした。

石井四郎の故郷・加茂を訪ねる

成田空港のすぐ近く、今の山武郡芝山町にかつての加茂村があります。石井四郎はその地域の大地主の息子です。石井は村から貧しい小作人の次男や三男坊、少年から、大工、左官屋、運転手やコックなど多くの人た

ちよとど私と同世代だったのです。彼という話をしているうちに、「うちに彼の書いたノートがあったけど、どこかへ行ってしまった」という。まさか石井四郎直筆のノートなんてあったのかしらと私は信じられない思いで、「もしありましたら是非ご連絡ください」とお願いし、その時は帰ってきました。

千葉県の加茂を訪ねて半年ほど経った頃、石井四郎の身の回りを世話していた女性の長男から連絡がありました。「ノートができてきました」といいます。私はまさかと思いましたが、

石井家の四男である四郎は大きな体で、非常に優秀でした。金沢の旧制第4高等学校を経て、京都帝国大学医学部を卒業しました。そして陸軍軍医学校へ進んだ。当時、陸軍軍医学校に

「ヨーロッパ旅行から濾水機開発へ」

1925年、化学兵器と細菌兵器の使用を禁じるジュネーブ議定書が、締結されました。しかし、その裏で石井は「条約で禁止するほど細菌兵器が脅威である、つまり有効というなら、ひとごとこれを開発しない手はない」と考えたそうです。

この頃、石井は2年間の不可解な長期海外旅行に出ています。帰国後に、「最強諸国が細菌戦の準備を行っており、もし、日本がかかる準備を行わなければ、将来戦において、日本は大きな困難に遭遇するであろう」といって、日本陸軍省および参謀本部の幹部たちに、説いてまわったのです。

資源の不十分な日本でも、時的に石井四郎は異動になって東京に帰ります。その後、731部隊の二代目の隊長として送られたのが北野政次。しかし、1945年3月には戦況が悪化、石井が部隊に戻りました。石井は着任後、熱弁をふるってこういっただけです。「戦況は悪化しつつある。春の末、あるいは夏に日本の好転を期して、細菌兵器を含む最後の手段を用いるべきです。」

細菌戦からペストノミの大量生産へ

し、記録フィルムを作製。軍隊内で大々的に宣伝する一方、ペスト菌をそれ以降の大規模な細菌戦の兵器として選んだわけです。それでペストノミの生産能力の拡大に力を入れるようになった。

その後、常德でペストノミを1000メートル上空から投下。1942年には浙

かかん作戦などをやっていたわけですが、この頃、一

入れるのはほんの少数のエンジニアだけで、全国の医学生のなかでたった100人足らずだったそうです。その後、近衛歩兵第3連隊などを経て、陸軍から京都帝国大学大学院へ送られる研究」でした。



青木 富喜子氏 (作家・ジャーナリスト)

下された証拠隠滅命令

ところが、8月8日、ソ連が満州に侵攻。予想していたよりずっと早かった。陸軍省としては細菌兵器

それが起死回生の秘密兵器だったはずなのに、ソ連の侵攻が予想をはるかに上回るスピードだったので、目にも止まらぬ早さで、平房の一大施設の撤収・撤去作業を余儀なくされた。

その後の石井の足取りは、これまで全く掴めていませんでした。ところが、私が発見した石井の「終戦当時メモ」にはその時の詳細が見事に描かれています。

関東軍に見放され、辛苦をなめたおよそ100万人の避難民に比べると、石井部隊がいかに手際よく撤収したか、石井メモにディテールが記録されています。

「8月8日、ソ連軍対日宣戦布告。12班の破壊」8月9日原子爆弾「関東軍より電報」8月11日、新京より軍司令官当直訪問。

東京の参謀本部から朝枝繁春参謀が来て、新京の軍用飛行場の格納庫で石井は朝枝参謀と1時間立ち話をしました。当時、朝枝は33歳、石井は53歳。20歳も下の参謀に命令されたのです。「貴部隊は全面的に解消

内藤良一とサンダースレポート

その後、米軍はメリーランド州フレデリックにある細菌戦基地「キャンプ・デトリック」から医師を派遣してきました。マレー・サンダースという医師が横浜の埠頭に着いた時、「ドクター、サンダース」と声を掛けてきたのが内藤良一です。彼はサンダースの写真を手に、本人を見極めながら声をかけてきた。つまり、誰かが裏で手を引いていたということです。

サンダースは細菌戦基地の専門家として送られてきたのですが、731部隊について事前の知識は何もありませんでした。それで「部隊の解明には、東京裁判で戦争犯罪に問われないという免責を約束しない限りうまくいかない」とマッカーサーに頼みます。マッカーサーもこれをきいた

し、部隊員は一刻も早く日本本土に帰国させ、一切の証拠物件は永久に、この地球上から雲散霧消すること「このために工兵一個中隊と爆薬5トンを配属するように手配済み」と朝枝参謀は言い、更に次のような命令を下しました。

「建物内のマルタ(捕虜)は電動機で処理し、貴部隊のボイラーで焼いた上、その灰は全て松花江に流し捨てること」「職員は婦女子どもに至るまで、満鉄で大連へ輸送の上、内地に送還すること」。この時、石井は「研究データだけでも持ち帰ってはなりません

シベリア抑留での柄沢供述

米軍の追求をうまく逃れたと信じていた石井の前に、1947年1月、今度はソ連が石井を含む3人の医師の身柄引渡を要求してきました。ソ連は「731部隊が人体実験で多くの人間を殺害していた」という、それまでアメリカが掴めなかった事実を探り出して、3人の軍医の尋問を要求してきたのです。

その情報は、ソ連に抑留されていた731部隊の軍医から、もたらされたものでした。少年隊の篠塚良雄がいた、第4部製造の第1班の班長、柄沢十三夫と彼

「捕虜がモルモットとして使われたか?」と聞かれても、内藤は「そんなことは」と答えるばかり。サンダースレポートはおおよそ不完全なレポートで終わりました。再び不発に終わったトンプソンレポート

若松町の自宅へ訪ねるので、石井は病氣だと言って伏せていて、質問には何も答えません。もちろん、人体実験を含む細菌兵器の開発の情報などトンプソンは何も引き出せなかったのです。

この時、フェル博士は石井の副官だった増田知貞から「人体実験は1933年から始められていた」ということを聞き出します。背陰河の東郷部隊からすでに人体実験が行われていたことが明らかになったのです。そして増田の提案で、「19

ト・フェル博士です。彼は石井たちに戦犯免責を約束しました。そして、人体実験、ノミの大量生産、中国に対する実験については一言もソ連に漏らさぬように完成し、その間に病理標本8000枚も出てきました。それらを解明し、医学的文書をつくるために、次のエドウィン・ヒル博士とジョセフ・ピクター博士が送られてきました。こうしてアメリカの調査は一応

ついに確認された人体実験の事実

こうしてソ連は東京裁判の検事局に石井を含む3人の引渡を要求してきました。ところが、アメリカとしては大変困ったわけです。彼らは人体実験について

「ハバロフスク裁判」の記録です。少なくとも、80人が100人の医師を抱えていた平房の研究室にも、人間を実験に使うことに強い良心の呵責を覚えていた医師が、ひとりはいたという事です。柄沢十三夫は京都帝国大学のエリートではなく、委託生として東京医学専門学校を出た実直な医師でした。1年間口を閉ざしていた彼は、ついに石井部隊の全てを語ることによって、医師としての良心を取り戻したいと思ったのでしよう。部隊の編成、責任者、研究内容、設備、人体実験の事実、中国での細菌兵器

石井四郎の戦後人生

その後の石井四郎ですが、晩年には近くの月桂寺というお寺に通って、僧侶と禅問答に明け暮れたようです。その生活の様子を石井メモに細かく記されています。

「石井は大地主にあらず、勤労所得者なり」こんなことも書いていますね。本当にごく普通の市民です。子どもの教育を心配してみたり、とにかく食べ物やどうやって手に入れるか、また煙草をどうやって手に入れるかなど、いろいろ書いてあります。

結局、石井メモには、医師として人間的に恥じるようなことをしたというようなことをしたというようない記述は何一つありませんでした。いかに戦犯から逃れるか、それに関するいろいろなことが書いてあります。ソ連のことも、アメリカのことも書いてある。サンダースもトンプソンも出てくる。しかし、どうして自分があることをしたのか、医師としての倫理については一言も書いていない。ところが石井四郎は晩年になって、上智大学の学長になったヘルマン・ホイウェル神父に洗礼を受けたという話があります。私がそのことをイグナチオ教会へ問い合わせたところ、「そういう記録はない」ということでしたが、禅問答をしたり、キリスト教に傾倒したり、ということは、恐らく最後

この時、フェル博士は石井の副官だった増田知貞から「人体実験は1933年から始められていた」ということを聞き出します。背陰河の東郷部隊からすでに人体実験が行われていたことが明らかになったのです。そして増田の提案で、「19ト・フェル博士です。彼は石井たちに戦犯免責を約束しました。そして、人体実験、ノミの大量生産、中国に対する実験については一言もソ連に漏らさぬように完成し、その間に病理標本8000枚も出てきました。それらを解明し、医学的文書をつくるために、次のエドウィン・ヒル博士とジョセフ・ピクター博士が送られてきました。こうしてアメリカの調査は一応終わりました。



全国から集まった参加者で熱気あふれる会場

当日の様子は協会ホームページからご覧いただけます。ぜひ、ご参照下さい。

吉田 誠(舞鶴)

牡丹

家内の力作です。四季おりおりの花を咲かせて、診療所において、患者さんの眼を和ませています



桜

舞鶴医療センター前。昔から舞鶴の桜の名所として有名

新理事随筆・忘れ得ぬ症例

気軽に相談できる関係の大切さ

保険部会 森 啓之(伏見)

現在、私の診療所では、看護学生の実習を行っている。この時に全員に必ず教えていることは、患者さんが来院した場合、真っ先に言うことは、重症患者を見逃すなということです。「顔色が悪くて元気がない」という児は、ろくなことがないよ」「どうした見はたどえ待ち時間が1時間後であっても、すぐに処置室に入れ、バイタルサインを評価して、すぐに対応すること」と、エラそうに説明しています。それがまさに自分の身につまされる経験になるのでは…。

それは生後3カ月の男の子でした。1週間前に胃腸炎症状で受診しており、症状は治まりかけていたのですが、前日夜より再び嘔吐をはじめたということです。見ると、たしかに顔色がやや不良で、少し元気がない、何か様子がおかしいという印象でした。

診察では、意識・呼吸・循環全て異常なし。低血糖かもとチェックするも血糖値は正常でした。私はこういふ腸炎の後には、腸重積症の合併をつねに念頭に置いていた。丹念に腹部を触診したのですが、それら

私のすすめる ナガラ文学鑑賞

宇田 憲司(宇治久世)



『今しかおへん』一筆の家「鮫鱈屈」川浪春香著 編集工房ノア 定価 2160円(税込)

本書は、著者公刊の小説集の第4冊目で、昭和18年68歳で他界した印刷業者で篆刻家水野栄次郎の、弘技堂を立ち上げ、眼鏡(第11章)を要する年齢を経て、鮫鱈屈(第14章)を引継ぎ、鮫鱈屈、勝六齋の基礎ともなった生涯を、実孫恵氏からの思い出語りに描いている。

主人公は、家禄奉還により没落した元加賀藩士の末裔で、明治19年、12歳にして家宝の短刀二代目清光と過去帳を携え入洛する。その

篆刻とは如何なるものか

祖の手になる謄本の内45番を臨書したなど既に運筆の基礎はある。版木彫りや木口、水

の修養は、丁稚働き雌伏の7年第三章にあり、店主武蔵の妻フサからニッと笑えと人付き合いの要点を諭され、店主には金勘定をまかされ、商人の信用をも試される。押し印には、猪牙(第4章)で紙を磨き、印面を叩いて印泥を載せ、印矩を当てて鈴すなど、学ばべきことは多い。

栄次郎20歳の春、第4回内

この方はとりわけよい経験ですが、考えや思いを聴き、望む環境を整え、親の大切を思っている」と伝えている。単位制高校へ進学を自ら選択した。通学の苦しさで眠れない中、学業と努力の要る熱帯魚の世話を通立させ、自ら選んだ学校は無欠席で通わせました。

魚の研究に魅かれ志望校を決め、合格したら苦手だった電車を3〜4回乗り換え、片道2時間の大学に通いました。学生食堂で入替の昼食に苦慮しましたが、研究の自信が深まるにつれ、4年生で初めて参加したコンパは、終電を逃すほど面白く、ゼミの旅行も愉しめました。

卒論が優れていて、卒業式で学部長賞を受け、特待生として大学院で世界的研究を続けています。

新理事随筆・忘れ得ぬ症例

子どものちからは充ちる

総務部会 有井悦子(左京)

子どもの心身のしんどさ、不登校をはじめ集団生活の困難、家庭内暴力等の活の困難、30年あまり続けてきた診療を30年あまり続けてきた、どの子どもみせる「ちか登校をドクターストップにすると、患者さんは回復しずにはいられません。

小学3年のときから繰り返しの不登校になり、6年生で不登校になり来院した男児は、その典型例で、現在大学2年生です。主治医に「お母さん、それは腸重積など何か重症な病気かもしれない。もう一度診療所に来てください。大きな病院を紹介いたします」と伝えてすぐに来ていただきました。

結果は、腸回転異常症から中腸捻転を合併し、腹部エコー検査で腸管内に血流信号がまったくなし、と診断されました。そのままたちが、腸管も壊死することなく助かりました。その男の

子どもは、今も元気で、通院してきていますが、もしあの時お母さんがこちらに遠慮なく気軽に相談できる関係にしてください。

子どもは、今も元気で、通院してきていますが、もしあの時お母さんがこちらに遠慮なく気軽に相談できる関係にしてください。

子どもは、今も元気で、通院してきていますが、もしあの時お母さんがこちらに遠慮なく気軽に相談できる関係にしてください。

先生の趣味拝見!

日常切り取る色鉛筆画

元保険医協会理事長で、下京西部地区の竹内周徳医師の趣味が色鉛筆画だと聞き、作品を拝見しに伺った。

作品は、全国公募展である日美絵画展へ出品。今年も東京六本木にある国立新美術館で開催される同展へ、「あさがお」の絵を出品したとお聞きした。

理事長を退任してから始めた趣味で、以前は年1〜2点(10〜20号)の絵を制作していたが、近年はあまり描いていないとのこと。通信教育で基礎を半年ほど学んだという。色鉛筆で少しずつ描き進めていくため、1点を仕上げるのに4〜5カ月かかるそうだ。描き上げた

作品は、全国公募展である日美絵画展へ出品。今年も東京六本木にある国立新美術館で開催される同展へ、「あさがお」の絵を出品したとお聞きした。過去に出品した作品では、優秀賞、学園賞や京都新聞社賞(15、16年前)も受賞している。京都新聞社にはこの場を借りて、お礼申し上げたいとのことだった。受賞作品の一つが、竹内医師の慣れ親しんだ散歩コースをモチーフにした物集女の竹林。20号の大きな作品で、竹内

医師の自宅玄関に飾られている。向日市西ノ丘陵の竹林で、2000年から向日市特産の孟宗竹を使って整備されてきており、「竹の径」と呼ばれる。「京都府景観資産」「京都府文化景観」に選定されるなど、竹林の地として親しまれているので、ご存じの方も多いかもしいれない。

次回作品は、10数年前に旅行した安曇野の野仏をモチーフにした安曇野の野仏をモチーフにするそう。すでに描き始めているが、野仏の顔が定まらず、一度描いたものを破り捨てて描き直していると、笑いながら話してくださいました。



竹内周徳氏(下西)と受賞楯



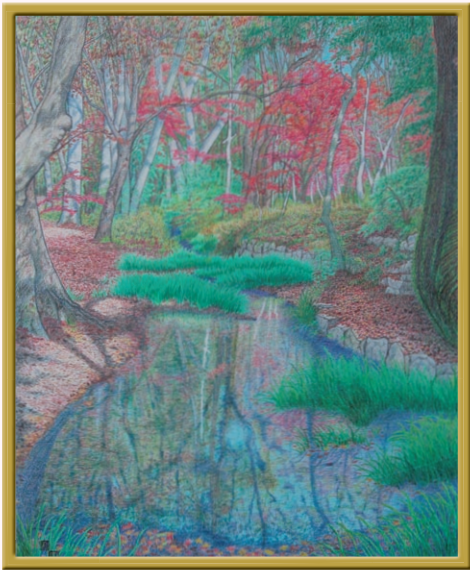
竹の径



妙法院の庭



蓮の花



秋の糺の森

新理事随筆・忘れ得ぬ症例

大切な思い出

藤田 祝子(下京西部)

先般の読売新聞の「編集手帳」の欄を読んで、まさに私の今の気持ちを表していると思えましたので引用させていただきます。

「子供時代のことを詩に書いて発表する。そうすると思いを売りに出したような気持ちになる。へ自分も風景も、みんな厚化粧した見世物になってしまふんだ。」寺山修司『田園に死す』の一節である。これは18年前に神戸市で起きた

連続児童殺傷事件で当時14歳だった加害男性が、手記「絶歌」を出版したことに対する記者の想いです。「書くことで自分を治療したかったと、切羽詰まった執筆の動機を語っている。その言葉に偽りはなくとも、遺族の胸には亡きわが子を見世物にされたような痛みが残ろう」と書かれています。

保険医協会のことが何もわからず新任理事として初めて参加した理事会で、「忘れ得ぬ症例」のお話をいただきました。なかなか原稿に取りかかれずにいたのですが、この新聞の記事で自分でも納得がきました。私は1992年に医師になり、1992年に医師になり、何でもできるようになってきたと自信があふれていた研修医、大学院生の若かった時代、その後開業して多くの患者さんと関わりました。その間、医療だ

新理事随筆・忘れ得ぬ症例

日々向き合う患者さんすべてが忘れ得ぬ症例

辻 俊明(西陣)

今から20年ほど前、私が30歳代の勤務医であった頃、先輩の先生から教えられたことがある。それは医師の心構えであるが、「20歳代の医師は疾患部位を治し、30歳代になると疾患部だけでなく体全体も治す。40歳代になるとその人の社会的背景も含めて治療する」というものであった。

若い頃は、知識、技術をまず習得すべきで、それに大きな時間、エネルギーが費やされる。そして治療方法の選択肢がふえてゆくと、体全体のバランスの中で治療できるようになり、最終的には患者さんがそういう状況に至った過程、背

景も含めて物質的、心理的な治療をすることができるといってであらう。20歳代の若者にあれもこれもと要求するのは酷である。しかし経験を重ね、事の本質を見極めながら年齢を重ねてゆくことは医師自身の進歩であり、楽しみである。そのとき医師は患者さんを癒し、同時に患者さんによつて癒される。与え、与えられる。自もなく他もなく、ライブニッツの言う「包みつつ包まれる世界が実現する。目指すべきは、そのような状況であらう。

医療、文化、芸術など、人間の活動を掘り下げてゆけば、共通の目的に近い細な事柄、出

けでなく、一人の人間として多くを勉強させていたいただきました。人は忘れられない思い出というより、楽しかったことより、辛く傷ついたこと、悲しかったことの方が心に残っているのではないのでしょうか。私にとって、このお話をもらって思いつくことはいくつもあります。それらを思い出すと、心が痛くなり泣きそうになります。それらが私を成長させてくれたことは確かです。しかし、多くの方が目を通されるこの紙面に、私の大切な思い出話を語ることができません。先に書いた私の気持ちをお察し下さい。

医療、文化、芸術など、人間の活動を掘り下げてゆけば、共通の目的に近い細な事柄、出

で経験する些細な事柄、出

日々生活

日々生活

第30回 環境ハイキング

「沖島探訪と湖国の小京都・近江八幡を巡る」のご案内

日時 9月6日(日)

※前日夜の天気予報で京都府南部の降水確率が60%以上の場合は中止

集合 午前8時37分発に乗車 ※少し余裕をもってお越し下さい。
JR京都駅 琵琶湖線・快速長浜行き先頭車両
※途中乗車の場合はお申込み時にご旨をお伝え下さい。

参加費 無料(交通費自弁)

昼食・飲物・雨具などは各自ご用意下さい。

共催 京都府保険医協会 京都府歯科保険医協会

京都の夏

稲葉 正(京都北)



テーマは夏がよからうというので、今回は色鉛筆で描いてみました。暑い夏を感じを弱いたので、これも何回も重ねて描いてみました。5〜6年前からペンを描いていますが、塗り直しを繰り返してしまいました。まだ少し色が入り込んでいないので、暑い薄い感じでしょうか。水彩色鉛筆を多用して描いてみました。

熊

谷口 謙(北丹)

連山の登山口に熊が出た
数人の情報が流れ
また 峠道に熊の糞が転がっていた
熊退治をせねばならぬ
峠道に車が二台走る
熊退治に行きます
大きな連呼
その後 音沙汰なし
冬眠には少し早い

版画「コリウス花壇」

田代 博(右京)

コリウスはシソ科植物で、葉の美しいものが多くあります。6月から11月、細葉のもの、枝垂れるものなど、型の違うものが多いです。高さ、うものを寄せ植えするのも良いです。



忘れてはならない戦争体験

戦後70年を迎えて

林戸 博(伏見)

一連の戦争の切っ掛けと奉戦日に因んで毎月8日は米飯の真ん中に梅干1個が入った「日の丸弁当」の持参が義務づけられました。昭和18年、山本五十六大將の戦死の頃を境に日本軍は次第に劣勢となり、翌19年にはいよいよ戦局が厳しさを増してきました。級友のなかにも少年兵を志願する者も出てきました。中学4年になった私たちは、働き手を軍隊にとられた重工業場の予備軍として動員されました。この年動員された中学および女学生は全国で300万人といわれています。幸い私の動員先は市内の工場でしたが、京三中(現山城高)は愛知県にある中島飛行機半田工場に動員されました。同年12月7日に起こった東南海地震で13人の三中生が圧死しました。この日を祈念して70年を経た今でも同窓生が追悼の集いをしています。昭和20年に入りますと、日本の各都市は次々と空襲をうけました。3月13日大阪が爆撃を受けた時、京都市内は黒い雨が降りまじっていました。何がおこったのかと訝っていたところ、大阪から命からがら逃げ帰った知人が、大阪は焼野原になり死体が散乱していると告げられ絶句しました。被害の大きかった京橋辺は戦前は陸軍砲兵工廠があり昭和30年頃まではまだ瓦礫が山積

保団連 病院・有床診療所セミナー in 京都

■主催 全国保険医団体連合会 ■開催協力 京都府保険医協会

■日時 9月26日(土) 18:30~21:00、27日(日) 10:00~15:00

■会場 ハートンホテル京都 (中京区東洞院通御池上ル ☎075-222-1300)

■参加費 両日参加(1人10,000円)、1日のみ参加(1人6,000円)
※同一法人2人目以降は参加費が3,000円引きです

***京都府保険医協会会員医師ご本人に限り、申込先着20人は参加費が無料!!**

●一日目 ●記念講演 「新段階の医療費抑制策と提供体制の改善
— 地域医療構想と地域医療連携法人にどのように対処すべきか —」
仏教大学社会福祉学部教授 岡崎 祐司氏

●二日目 ●セミナー 「医療事故調査制度の留意点」
●病院分科会 「医事紛争事例ケーススタディ(仮題)」「マイナンバー
スタート! — 医療の個人情報を守るか(仮題)」など

申込・お問い合わせは、京都府保険医協会(☎075-212-8877、FAX 075-212-0707)へ
(9月11日〆切 定員100人)